

北杜市地域福祉計画第3回策定委員会議事録

(1) 会議名

北杜市地域福祉計画第3回策定委員会

(2) 開催日時

平成23年12月2日(金)

午後1時30分～午後3時30分

(3) 開催場所

本庁西館特別会議室

(4) 出席者(委員10名、事務局10名 計20名)

委員：長田委員長、齊木委員、齊藤委員、取屋委員、長坂委員、仲田委員

深澤委員、原委員、谷戸委員、吉田副委員長

事務局：米田福祉課長、織田福祉課長補佐、福祉課福祉担当伴野リーダー、福祉課福祉担当木次、浅川子育て支援課長、山田健康増進課長、地域包括支援センター中嶋指導監、地域包括支援センター宮沢リーダー、商工観光課商工担当平井リーダー、(株)ジャパンインターナショナル総合研究所佐藤氏

(5) 議題

- ① 福祉関係団体ヒアリングの結果について
- ② 第2次北杜市地域福祉計画素案について
- ③ 今後のスケジュールについて
- ④ その他

(6) 公開・非公開の理由

公開

(7) 傍聴人の数

1名

(8) 審議内容

1 開会のことば

(課長)

2 会長あいさつ

3 議事

(議長) 議事に入る前に、議事録署名人の指名をさせていただきたい。前回配布した名簿順で、今回は、仲田委員、深澤委員にお願いしたい。

① 福祉関係団体ヒアリングの結果について

(事務局) ヒアリングの結果を説明する。

(議長) 質問、意見等があるか。

(委員) 5ページに、民生委員が訪問すると「何しに来た」という記載がある。実際

このようなケースもあるが、民生委員は、孤立している方をとりこむよう、こまめに声かけ、見守り等を行うよう努力している。また、高齢者の中には、デイサービスを利用している方が多いが、利用していない方が引きこもってしまう傾向がある。このような方たちが孤立しないよう、今後も努力していきたい。次に、計画素案の中のふれあいペンダントの関係で、当初は500台ほどあったと把握しているが、現在の台数は。審査が厳しく、民生委員が申請してもなかなか決定にならないケースがある。携帯電話型に移行する際には、台数を増やしていただきたい。

(事務局) 現在の台数は、190台である。

(議長) ふれあいペンダントについては、議事②の中で審議したい。民生委員は活発に活動しているという解釈でよいか。

(委員) よい。

(委員) 結果を全体的にみると、「知らなかった」、「広報に掲載して欲しい」との御意見が多く見られる。大勢の人に知ってもらうにはどうしたら良いのか。広報について、掲載の申し出があれば、積極的に掲載したらいかか。

(事務局) ヒアリング結果では、「制度を知らない」、「自分たちの活動を知ってほしい」との御意見が多かった。周知方法について、これまで以上に今後取り組みたい。また、この点については、この後御説明する素案の中に出てくるので、御議論いただきたい。

(委員) 今回ヒアリングを行った団体は、6～8年経っているところが多い。「てつなぎ北杜」の代表者と話す機会があるが、リーダーの世代交代は難しい問題。その点で、「共育ちの会あ・そ・ぼ」は、若者をリーダーにして、後継者を育てている。活動を続けていくうえで、活動に対しての見返りが必要であり、それは金銭ではなく、利用者の喜びの声である。その他に活動にスポットをあてることが重要では。「共育ちの会あ・そ・ぼ」は、過日、山梨日々新聞に活動状況が掲載され、力が入っていると思われる。「明野ひまわり育児サークル」も、後継者問題に苦慮しているようであり、後継者を育てるためには、広報による活動紹介も考えられるが、例えば、活動にスポットをあてることが良い方策ではないか。活動している個人の顔が見えるような周知を行うよう取り組んでいただきたい。

(議長) 要望ということではよろしいか。リーダーの世代交代がスムーズにできるよう、広報等で積極的に掲載していただきたい。

(委員) ヒアリング団体1、6、7の活動拠点はどこか。

(事務局) 1は須玉町。6は大泉町で、市の空き施設を使用している。7は長坂町である。

② 第2次北杜市地域福祉計画素案について

(事務局) 計画素案を説明する。

(議長) 質問、意見等があるか。

(委員) 10ページ、グラフ表の「n=994」とあるが、対象者の抽出方法は。

(事務局) 抽出方法は無作為抽出で、20歳以上の市民2000人を対象とした。

(委員) 24ページ、ふれあいペンダントの関係で、内容は今までどおりなのか。

(事務局) 機械について、現在は固定型だが、移行すれば携帯電話型となる。また、通報先について、現在は消防署だが、移行すれば間にコールセンターが入る。制度の内容は変わらない。

(委員) 意見として、先程の委員の話で、当初より台数が減っているようだが、対象者がどの程度いるのかを把握する必要がある。また、この装置を設置するまでの期間(待機期間)、暫定措置を検討する必要があるのでは。

(委員) 要望として、障害者についても、一人暮らしで不安を感じている方もおり、ニーズを把握して、対応していただきたい。

(事務局) 要綱の支給要件は、虚弱な65歳以上の独居者、または、高齢者のみの世帯の方であり、庁内のサービス調整会議にて利用の可否を決定している。「虚弱な」というところで利用が難しくなっている面があり、「元気であるが、夜間は不安である」という方は、現在設置できないことになっている。携帯電話型に移行すれば、設置台数が今より増えるという情報もあり、対象を拡大できればと考えている。また、障害者については、今後、コールセンターがどのような方を対象にするかという問題がある。その際、検討していきたい。

(委員) 本計画は、どの程度まで配布するのか。

(事務局) 100冊印刷する予定。その他、広報等を使用して内容を周知していきたい。

(委員) 素案について、段階を追ってわかりやすくできていると思う。周知する際には、「目指す地域の姿」、「市民に取り組んで欲しいこと」をダイジェスト版として配布してほしい。そうすれば、市民もどのくらいできたかが確認できる。次に、14ページ、「地域活動」の定義は、自身の地区においても、昔から行われている時代を捉えていないような活動があるが、本計画の目的を達成するための地域活動で、先進事例があれば、地域に流して欲しい。次に、本計画を周知する際、広報、市のホームページ、民生委員、行政区長等を通して行うと思うが、是非、地区ごとに座談会を開催し、職員が地域へ出向いていただきたい。区長経由の場合、熱意が半減してしまうので、現場の職員が熱意を持って話して欲しい。大変なことだが検討していただきたい。次に、文章全体で、「インフォーマル」等のカタカナ言葉が多いので、再度見直していただきたい。高齢者にもわかりやすいよう、できる限り日本語で表記していただきたい。

(事務局) 本計画は、地域の皆様に取り組んでいただく計画でもあるので、「目指す地域の姿」、「市民に取り組んで欲しいこと」については、ピックアップして、ダイジェスト版に掲載していきたい。次に、地域活動の先進事例について、検討中であるが、本計画自体に、コラムという形で紹介できるように考えている。それだけでなく、今後、機会を捉えて紹介していきたい。次に、座談会の開催について、私であればど

こへでも行きたいと思っている。次に、カタカナ言葉について、御指摘のとおり。次回には修正したものをお示ししたい。

(委員) 障害者福祉施設管理者の立場から。12ページ、「民生委員による地域福祉情報の周知」に関し、民生委員は、高齢者、母子父子家庭、生活保護家庭を見守る点で、活躍されているが、障害者は地域の中で豊かに生活するのが望ましいという国の方針にもあるとおり、障害者も自助・共助により地域の中で生活している。研修会の中で、地域にどのような障害者がいるか、どのような支援ができるかを取り上げていただけるとありがたい。次に、11ページ、周知について、地上デジタル化に伴い、市の広報ニュースが見られない高齢者もいると聞くが、操作方法について啓蒙していただきたい。また、高齢者にとっては、ホームページによる周知は難しいと思われるので、広報・チラシにて積極的に周知して欲しい。次に14ページ、転入者への窓口での呼びかけ・資料配布について、区長の紹介を行うとあるが、班長の氏名を是非紹介していただきたい。個人情報の問題もあると思うが、班長も公的な立場であるため、検討していただきたい。次に、成年後見制度の利用促進について、積極的に推進していただきたい。障害者福祉政策については、平成18年に、障害者自立支援法が改正され、その後、民主党政権になり、徹底的に見直しがされている。来年には、障害者総合福祉法が制定される見通しであり、この制度について、市の予算対応をお願いしたい。

(議長) 班長氏名の紹介についてであるが、あくまで区長までが行政の範囲内だと思う。公的な機関からの紹介として、班長氏名まで入れてよいのか。

(委員) ごみ等の件にしても実態を把握しているのは班長であり、区長のところへ来ても結局班長を紹介しているのが現状。班長を紹介するのは、望ましい形である。

(議長) 問題が起きないように、事務局は対応していただきたい。

(委員) 地上デジタル化については、民生委員の活動の中で、落ちこぼれが出ないように対応している。また、成年後見制度についても、市の指導もあり、対応するようにしている。月に一回の定例会の際には、包括支援センターの職員に出席していただき、障害者の話もでており、常に把握している。

(事務局) 地区を担当している障害者関係の相談支援専門職員は、現在2名しかおらず、各地区の定例会には出席できていない。今後は、毎月といかないまでも出席し、情報共有できるようにしたい。

(議長) 社会福祉協議会会長としての立場から発言する。成年後見人制度の関係では、社会福祉協議会においても、専門員を配置している。昨今新聞等においても話題になっている問題だが、民生委員と連携しながら、相談に応じていきたい。

(委員) 相談窓口の一覧表について、例えば、ごみ収集関係のポスターのようなわかりやすいものを、支援が必要な方だけではなく、教育するという意味で、現在健康な方も含めて全戸への配布を検討していただきたい。そうすれば、地域で協力し合おう

という気運も生まれてくると思う。次に、意見として、民間企業で実施しているような電話によるサービスも取り入れられればよいか。

(事務局) 確かに、全戸に配布できれば、地域の中で協力体制ができると思う。相談窓口の案内、周知については、現段階では全戸配布は考えていない。予算との兼ね合いになるが、計画期間の中で検討していきたい。また、電話によるサービスは、大掛かりなシステムであり、今後の検討課題としたい。

(委員) 本計画のボランティア等の部分において、社会福祉協議会との連携があり、福祉関係団体ヒアリングの中でも、「活動を活発化させて欲しい」との意見もでているが、今後、本計画を進めていく上で社会福祉協議会との連携はどのように考えているか。

(事務局) 現在、社会福祉協議会との関係では、委託事業と人件費やボランティア事業などへの補助がある。これまで、市と社会福祉協議会が、一つの課題を解決していくために話し合いをするという機会は少なく、意思疎通が十分でなかったと思われる。今後、情報交換等を活発に行っていきたい。補助額を増やすことは難しいので、事業の中身の部分で、連携を深めていきたい。

(委員) 子育て支援の立場から、11ページ、子育て情報サイト「やまねっと」では、公的な活動でない個々の活動は掲載されているのか。掲載されていなければ、地域福祉ポータルサイトにて掲載するよう検討していただきたい。次に、福祉関係団体ヒアリングからの問題点として、「リーダーの養成」、「周知方法」、「マッチング」、「ネットワークづくり」、「コーディネーターの育成」等が挙げられており、特に後者2点は、次期計画の重要課題となる。19ページ、「市民に取り組んでほしいこと」の中で、「地域の中で、各分野を横断したネットワークづくりを行うこと」とあり、大切なことだと思うが、市民にはわかりづらい表記であるため、具体的にわかりやすく表記して欲しい。次に「地域福祉推進協議会（仮称）」の立ち上げについて、素晴らしいことだと思う。この延長上にはPDCAサイクルがあり、チェックの部分が重要になってくる。十分なチェックを行い、次期計画へつなげていければよい。評価を行う場としては、本協議会のみとなっているが、形式的な評価に終わらないようにするため、その他の評価方法についてお考えはあるか。

(事務局) 「やまねっと」について、現在、個々の活動が紹介されているかについては、把握していないが、もし、紹介されていなければ、地域福祉に関する活動であるので、地域福祉ポータルサイトの中で紹介していきたい。サイトの開始時期の問題もあるので、「やまねっと」において紹介できるのであれば、子育て支援課に働きかけたい。次に、ネットワークづくりの表記について、事務局にて検討したい。評価方法について、庁内においても評価を行う必要がある。その他によい評価方法があればご意見をいただきたい。

(委員) 8ページ、共助の部分と関係するが、「はつらつシルバーの集い」につい

て、自分の地区では、区長が浸透させ、自分もボランティアとして講習も受け、協力しているが、区長の考えで進めてしまう部分がある。区長に対し、本制度の趣旨等を文書でお知らせしていただきたい。

(事務局) 市としては、本制度は保健福祉推進委員会を中心に進めていただき、区長、民生委員、ボランティア等の皆様にも御協力をいただくという考え。地区によってやり方は違うと思うが、市民主体の取組みとして年々定着してきているところ。年度当初には、区長へ本制度のことや、保健福祉推進員の役割等について、説明しており、御意見を参考にして、今後とも取り組んでいきたい。

(委員) 武川地区では、保健福祉推進委員会が年間計画を企画し、区長に報告があがってくる。費用は行政区で負担している。内容については、保健福祉推進員が決定している。

(委員) 委員の意見を聞いて、事務局は予算面で心配されていると思うが、市民が望んでいるのは、立派な体裁のものではなく、内容のある情報がスピーディーに提供されることであると思う。職員の労力は大変だと思うが、事務局は、予算どりに苦慮せず取り組んでいただきたい。

③ 今後のスケジュールについて

(事務局) 今後のスケジュールを説明する。

(議長) 質問、意見等があるか。

(委員) 特になし。

(議長) 次回の策定委員会では、本日の議論と、パブリックコメントを踏まえ、最終案を示していただきたい。

④ その他

(委員) シルバーハウジングに関して、65歳以上の障害者の入居希望者がいたが、入居できなかった。理由としては、介護保険制度の枠があるとのこと。他の市営住宅についても、空室があったが入居できなかった。理由としては、組長等の役ができないからとのことであった。非常に残念である。良い知恵があれば出していただき、検討していただきたい。

(議長) 難しい問題であるが、要望に答えていただくよう、十分に検討していただきたい。

以上